

平成28年度大津百町・登録有形文化財調査一覧

1 奥村家住宅主屋 昭和10年(1935) [設計書・図面]

木造2階建、瓦葺、建築面積 80㎡、大津市長等2

北国海道に面して上北国町に建つ町家。奥村庄次郎が昭和8年に生まれた跡取りの孫を喜び、昭和10年に建てたという。昭和初期の特徴である御影石の腰壁と格子、浅黄色の大洋壁、上下に外長押を付けた開口部が印象的な町家である。トオリニワ形式の1列4室型の平面形式で近代化住宅様式を間取りに残す。また、建設当初の設計書と図面が残されており、鹿関町住む稲田卯三郎が設計施工したことがわかっている。平成22年より始まった北国通りの拡幅工事に伴い、26年10月24日に南に隣接する所有地に曳き家し、基礎を新設、翌年2月16日に曳き家し、現在の場所に移築した。

登録有形文化財登録基準「一 国土の歴史的景観に寄与しているもの」にて申請中。



2 川村家住宅主屋 大正12年(1923) [弊串]

木造2階建、瓦葺、建築面積 91㎡、大津市中央1

電車道に面して元会所町に建つ町家。大正元年(1912)札の辻駅まで開通した京津電車が、その後、大正14年(1925)に浜大津駅まで開通。「突抜」と呼ばれていた細い道が道路拡幅された際に、棒石鯰を販売していた橘金治により昭和12年に建てられた。橘金治と一緒にここで仕事をしていた川村民之助が昭和26年(1951)に購入。1階正面の外観に昭和初期の特徴を持ちつつ、2階の白い大壁に簡素な額縁を回した5箇所上げ下げ窓が印象的な町家。弊串から下百国町の大工棟梁、岩佐弥七が手がけたことがわかっている。

登録有形文化財登録基準「一 国土の歴史的景観に寄与しているもの」にて申請。



3 粹世 昭和8年(1933) [上棟札及び改築認可史料]

木造2階建、瓦葺、建築面積 176㎡、大津市長等3

浜通りに面して西今風町に建つ中規模の町家。官有地道路敷き占用取り消しにより道路拡幅のため、昭和8年(1933)吉川定五郎により建て替えられた。定五郎は斜め向かいの借家で米商いをしており、夫婦と先代夫婦、子ども6人の大家族の住まいとして建てたという、トオリニワ形式の2列4室型の平面形式に近代化住宅様式を間取りに残す。平成28年に吉川家から湖北設計(米原市)が購入し、中活町家等活用事業の支援のもと、市内初の大津町家の宿泊施設に整備した。外観にも昭和初期の特徴を残し、並びの建物と共に浜通りの町並み景観を特徴付けている。

登録有形文化財登録基準「一 国土の歴史的景観に寄与しているもの」にて申請予定。

